

## 第2回 上田地域の高校の将来像を考える協議会 後「個別意見」一覧

・旧第5通学区は流入超過により、地域の子ども達が生徒が地域で学ぶことのできない状況がある。特に、上田市街地から遠い地域に住む生徒たちにとって、他地域の高校まで通わなければならない大変さは深刻であり、ぜひ定員等による配慮をいただきたい。

・今まで以上に高校が地域の企業、大学、施設、行政機関と連携し、上小地域に在住して地域を支える教育を行ってほしい。

・外国籍の生徒が高校で学ぶことのできる対応を充実してほしい。

・各地域の高校への人の流れは、やがてその地域の魅力を計る尺度の1つとなり、結果として人口の一極集中にも結び付いていくと思われる。

・少子化が進む中、各地域に魅力ある学校を設置し、県全体として各市町村の生き残りをリードする働きを期待したい。

・基本は地元の中学生在が地元の高校に入学することだと考える。

・生徒数の増減のみによる高校再編計画ではなく、子ども達や中学校現場で抱える課題について目を向けて改善につなげてほしい。

(課題) 集団になじめない生徒や発達障がいを抱え学校に行きづらさを感じている生徒、ゲーム依存症の生徒など、不登校や学校へ来られない生徒が増加傾向にある。

・このような子ども達も高校生活に夢と希望をもって入学できるような学校づくりをお願いしたい。

(具体案) 高校にも中間教室のような教室を設け、職員が見守り、指導していくような仕組みづくりをお願いしたい。

・高校の1クラスの生徒数の枠を35人規模にし、よりきめの細やかな指導をしてほしい。

・流入超過により地元の子が入学しづらい状況を少しでも緩和できる仕組みづくりを希望する。

・上小地区の生徒が地元の高校に入りづらくなっている現実はあるが、高校は独自の方向性を示して、その高校ならではの魅力(特色)を創造してほしい。

・中学生が「そこで、それをやりたい、学びたい」と思える高校を目指してほしい。

・アンケートを見ると、市内の生徒が地元愛をもって、家庭を含めた生活環境を大切にしたいと、高校へ進学することを切に願っていることが分かる。また、地域学習、地域貢献事業、地元での職場体験学習等、地域の方々と結びついた学習を進めてきた中で、地元の上田地域の高校へ進学したいと思うのは、心からの思いであると考えられる。

・より多くの生徒が地元上田地域の高校に進学し、学べる機会が確保されるよう、上田地域の高校に願うところである。

・上田地域に住んで、上田地域以外の高校に通う生徒の全員がマイナスな思いを抱えているわけではないので、「上田地域以外への進学＝問題・不本意」と括ってしまうことには違和感がある。

・アンケート結果からも、中学校で高校進学についてだけでなく、大学進学・就職についても情報を集め、生徒と考えていかなければならないと感じた。

・真田地域の实情から、佐久方面や長野方面などへの通学は、時間的・距離的に難しい。生徒の希望や多様な学びに対応できる高校に、山間部からも無理なく通学できることを重く考えて、上田地域の高校の将来を検討していただきたい。

・高校卒業後、数年から10年ほど経過し、ある程度経験を積んだ人たち（大学生や社会人など）から、高校のあり方について意見を聞き、本件の参考にはいかかがか。

・公共交通、特に定期バスの路線拡大や増便は困難であるが、市町村や関係者は現状維持に努める必要がある。

・高校進学は、生徒の人生において大きな分岐点であり、高校の現状について、進学を控える中学生やその保護者に充分理解してもらってほしい。

・本協議会のような場合は、少子化や産業構造の変化に伴い常に必要なことであり、事務局は県教委で、メンバーを少人数として常設してほしい。

・本協議会でまとめた意見は、県教委の枠にととまらず、関係する県知事部局で横断的に情報共有を図り、解決策を同じテーブルで議論し、次の展開につなげてほしい。

※関係分野：企画振興、交通、信州暮らし、文化、美術、国際、子ども・家庭、私学、高等教育、健康福祉、医療、介護、障がい者、食品、薬事、環境、政策、産業労働、ものづくり、ワイン、観光、農政、農業技術、園芸、畜産、農地整備、林務、信州の木、森林づくり、建設、技術、道路、河川 など

・流入超過は賛否両論あるが、他地域の仲間と関われることは新たな発見につながり、人間的な学びは広がると思うし、グローバル社会への第一歩と受け止めたい。また、将来的に地元生が減少した場合、流入生は学校存続に対して大きな意味を持つ存在になる。地元生は流入生に負けないよう力をつけ勝負（受検）してほしい。

・高校改革のビジョンは賛成だが、教師の意識改革がないと大きな変化は期待できない。教師自身が、授業改革と生徒個々の夢を共有し、卒業後も支えていくといった使命感を持ち続けてほしい。

・経済格差をなくすため、まず教育格差をなくすことが大事であり、地域高校や定時制（多部制・単位制）、通信制で学ぶ生徒の自立を支えていただきたい。発達特性のある生徒を含め、社会で戦う力が付けられるよう、キャリア教育や社会（人）と繋がる教育活動を積極的に取り入れ、自己肯定感や自己有用感を感得させてほしい。

・交通弱者である高校生の交通手段の検討は喫緊の課題であり、力があっても行きたい高校に行けないようでは社会問題である。最寄り駅に繋ぐスクールバスを整えるなど、国や県の積極的な補助が求められていると考える。

・急激な変化が予想されるこれからの社会をたくましく生きていく力を育てる立場から、高校教育の充実を図るような提言を行いたい。

・例えば、丸子修学館での総合学科の導入、上田高校ではグローバルハイスクールの研究実践など、進路指導や課題解決力の育成につながる新たな取組を行い、魅力ある高校を創造しようとしてきており、その流れの深化に期待したい。

・そのような取組について、各高校で様々な機会をとらえて発信してほしい。現状では中学生の理解は不十分であり、小中学校でも高校の実状を子ども達にしっかり伝え、進路選択の大事な情報にしていく必要がある。

・自閉症・情緒障害特別支援学級の生徒たちや、発達障がいのある生徒たちの高校での学習を一層充実したものにしてほしい。高校の先生方とともに、小中学校でも専門性の向上を図る必要があると考えている。

・他地域からの流入があるということは、魅力ある高校、特色ある高校になっているということであり、人気があると町や市の活性化につながってくると思う。

・総合学科の丸子修学館については、より地域に密着した特色を押し進める必要があり、例えばシナノケンシや日本電子などの企業と連携し、人材育成を考えていくなど、大胆な改革が必要と考える。

・現在進めている高校改革の方向で、推進していただきたい。

・県教委担当（内堀参与）から説明のあった高校改革の方向（ビジョン）には魅力と可能性を感じたが、反面、現状とのギャップの大きさに、埋め切れるものなのか疑問も残った。

・「新しい学び」と「新しい学びの場」の構築には膨大な労力と現場（教職員）の意識改革が必要となるため、それが可能なのかも含め、今後の推進に関わる具体的な見通しを提示し、推進していただきたい。

・中山間地にある高校に魅力を感じていない現状もあるように思う。多部制や総合学科などの工夫には成果もみられるが、それを地域校に担わせるのではなく、地域の実状を加味し、地域住民に希望を持たせられるような高校改革をお願いしたい。

・それぞれの地域で努力することが、流入過多の問題の解消につながると考える。

・「自分が入学した高校が最高の高校だ」と思える学校づくりや、学んだ内容が将来の役に立つと実感できる学びが大切であると考えている。

- ・中学生の進路選択にあたり、単に学力のみで一律に高校を選ぶのではなく、それぞれの高校の取組、特徴も紹介し、子どもが主体的に選択できるような仕組みも必要と考える。
- ・少子高齢化、一極集中を解消するため、高校と地域を結びつける活動を行っていただきたい。具体的には、保護者や地域の方が学校に関わること、また、高校生が地域に関わる取組を行うこと、さらには地方創生事業における学校と行政等の協働なども必要と考える。
- ・流入超過については、旧通学区制をやめた経過も踏まえた検討が必要であると思う。